

西条市では産学官分野の様々な有識者の方々にお会いし、多方面からのご意見をいただき、市政に役立てています。

(聞き手・西条市長 伊藤宏太郎)



国立大学法人東京工業大学  
学長 相澤益男氏

内閣府総合科学技術会議議員

1942年生まれ。71年東京工業大学大学院博士課程を修了。86年同工学部教授。生命理工学部長、副学長を経て、2001年大学長に就任。前国立大学協会会長。バイオセンサー研究の世界的権威として知られる。

東京工業大学は、理工系分野の人材育成で日本の最高峰に位置する名門大学。シリーズ2回目は相澤学長にお会いして、西条市の取り組みについてご意見を賜りました。

**市長** 先生は内閣府の総合科学技術会議議員としてもご多忙で、全国各地にお出かけになると思います。西条に、お越しになつたことはおありですか？

**学長** 四国にはたびたび足を運びますが、残念ながら西条にはまだ一度も出かけがたつたことがありません。しかし今回座談会のお話をいただき、あらためて勉強させていただいて、西条市が自治体として大きな潜在能力を秘めていることを強く認識しました。特に注目されるのは、水

資源が豊かなことですね。井があり、市民は湧き水を生活用水に利用しています。飲料水にもなるので、西条市民はミネラルウォーターを買って飲むという習慣がいまだに理解できません(笑)。

**市長** いま世界を見渡すと、水資源をめぐる激しい争奪戦が繰り広げられています。たとえば、いま安心して飲める水にアクセスできる人は実は限られていて、12〜13億もの人々が飲み

水にアクセスできずにいます。その点西条は、質量ともに水で困ることはない。西条市民にとってかけがえのない資産ですね。**市長** 平成8年から4年間、大規模な地下水の調査を行ないました。その結果、東西5800円、南北2200円に地下水源があることが分かったんです。最初は国土交通省から、「どうしてそんな調査を自治体単独でやるのか」と、ずいぶんいぶかられました(笑)。でも基礎データを整理することで、次の政策を考える足がかりになると信じて行ないました。

**学長** それは大変な慧眼です。自治体に限らず、大学にしても企業にしても、何か新しいことを始めようと思えば、まず自らの基礎体力がどれほどかを正しく見極めなくてはなりません。自分たちには何があつて、どこに特色があるのか。それがハッキリしないと、どんな政策も戦略も打ち出しようがない。それに先見性をもって取り組まれたことに感銘をおぼえます。

**市長** 役所というところは、せっかく調査をしてデータを集めても、報告書ができればお蔵入りになってしまう。私は常々、市の職員に「税金は人様のお金。ひしゃくで水を汲むように使うことはまかりならん」と言っています。

**学長** その姿勢は高く評価されるべきです。水源調査ですから、貯水量を突き止めれば、将来の需給予測も立つ。また貴重な水資源を損なうことがないよう、開発計画をたてる上でも参考になります。街づくりに極めて有効な「体力測定」の方法ですね。あとはその資源をどう生かすか。市長はその点でも、独自の見識をお持ちのようですね。

**市長** 当初は「西条の水」として全国に売り出そうという意見が数多く寄せられました。しかし私は反対したんです。水は共有の財産。切売りするよりも、水を使う利水企業を誘致した方がはるかに波及効果は大きい。なにより西条の持続的な発展にむけて展望が開けます。

**学長** 今はどこの自治体も企業も、「持続可能な発展」ということを目標に掲げています。しかし現実には、言葉でいうほど簡単ではありません。西条市はその点、水資源に恵まれ、それを有効活用するための戦略も明確。持続可能な発展という点でも、マイナスイメージはないですね。

**市長** また西条市では、豊かな水資源を生かし農林水産業の育成にも力を注いでいます。すでに